

連携・協働による消費者教育の推進

～浜松市の取り組みについて～



浜松市市民部市民生活課くらしのセンター

消費者教育コーディネーター 太田 克彦

報告の内容

- Section01 浜松市の消費者教育コーディネーター
- Section02 連携の仕組みづくり

- (1) 消費者教育推進地域協議会
- (2) 教育委員会・学校
- (3) 大学
- (4) 消費者教育推進庁内連絡調整会議

- Section03 連携・協働の事例

- (1) フェアトレード
- (2) 学校教材
- (3) 庁内関係課等

POINT

様々な関係者との連携
から成果が生まれた

- Section04 まとめ

(注) 本日の報告は連携をテーマとし、私の
現役時代とコーディネーターに就任してからの
取組を合わせたものです

Section01 浜松市の消費者教育コーディネーター

※現在2名体制

▶ 2015(H27) 教育委員会との連携強化を目的として初めて配置

国語科教員OB

＊ 中学校長→2013当センター 〈市民相談員3年→コーディネーター2年〉

＊ 静岡文化芸術大学国語講師を兼務

【顔が広く、適任者であったことからコーディネーターにスカウト】

▶ 2017(H29) 学校以外(職域、地域等)を担当するコーディネーターも必要と考え増員した

家庭科教員OB

1人目の後任

＊ 小学校長(家庭科研究会顧問)→2017当センター

【消費者教育推進地域協議会第1期委員も務めた】

行政職員OB

新規【私】

＊ 2010くらしのセンター→2016退職し市民相談員1年→2017コーディネーター

Section02 連携の仕組みづくり (1)消費者教育推進地域協議会 1

▶ 2014 消費者教育推進地域協議会の設置(7月)

＊2013に開催した「消費者教育のあり方検討会」の構成員を中心に組織

《参考:検討会提言》

消費者教育推進計画の策定、消費者教育推進地域協議会の設置
学校と結ぶコーディネーターの配置、教材の作成など

消費者教育のあり方検討会 委員(9名)

静岡大学教育学部教授
浜松商工会議所
浜松市社会福祉協議会
浜松市労働者福祉協議会
静岡文化芸術大学教授
民生委員児童委員協議会
消費者団体連絡会
弁護士会
消費者教育支援センター

関係する市職員(説明者5名)

高齢者福祉課
生涯学習課
教育総務課
市民生活課(2名)

消費者教育推進地域協議会委員(18名)

1	消費者団体	浜松市消費者団体連絡会
2	事業者・ 事業者団体	ACAP会員企業
3		静岡県生活協同組合連合会
4		浜松商工会議所
5	知識経験者	弁護士会
6		司法書士会
7		労働者福祉協議会
8		浜松市社会福祉協議会
9	教育関係者	民生委員児童委員協議会
10		静岡大学教育学部教授
11		静岡文化芸術大学教授
12		浜松市立小学校長
13	関係する 市職員	消費者教育支援センター
14		市民生活課
15		市民協働・地域政策課
16		生涯学習課
17		高齢者福祉課
18		教育総務課

POINT

連携が期待される
地域の有力なス
テークホルダーと
専門家で構成

今後連携を図りたい
庁内関係課にも
参加を求めた

2017 高校教員向け
教材作りに協力

フェアトレードタウンと
フェアトレード大学の
認定を目指して活動

2017 コーディネーターに就任

Section02 連携の仕組みづくり (1)消費者教育推進地域協議会2

▶ 地域における消費者教育の担い手である委員相互の連携を促すためのテーマ設定

* 関連する主な報告・議事等

POINT 話題性のあるテーマを取り上げ、
情報交換、意見交換の活性化を図った

⇒第1期(2014.10.29～2016.10.28)は、消費者教育推進計画の策定が主要なテーマ

第2期(2016.10.29～2018.10.28)		
2016	第1回	委員報告:「消費者啓発の取組」①日本自動車協会②県生活協同組合連合会
	第2回	〈略〉
2017	第1回	委員報告:「浜松市がフェアトレードタウンに」(静岡文化芸術大学教授)、市報告:フェアトレード関連事業
	第2回	委員報告:①高校生期の消費者教育(消費者教育支援センター)②フェアトレード大学の認定
第3期(2018.10.29～2020.10.28)		
2018	第1回	議事:「よりよい消費社会の実現に向けて地域においてできること」 ・課題A 成年年齢引き下げへの対応 ・課題B SDGsの達成に向けた多様な関係者の連携・協働
	第2回	市報告:ごみ減量天下取り大作戦(ごみ減量推進課)
2019	第1回	事例紹介:①フェアトレードショップの新規開店②消費者志向経営について(日本生命) 市報告:①教材の受賞②食品ロス削減(ごみ減量推進課)③フェアトレード全国フォーラム2019開催 調整:フェアトレード全国フォーラム2019での地域協議会情報発信について
	第2回	〈未開催〉

Section02 連携の仕組みづくり (2)教育委員会・学校

I 2013 ゼロからのスタート! …まずは環境づくり

▶ 教育委員会7課との打ち合わせ(2月)

* 推進法の説明、学校における消費者教育推進への協力依頼

- ▶ 現状に関するアンケート調査〈小中高校〉・ヒアリング調査〈教育委員会各課〉(10月～)
- ▶ 消費者教育のあり方検討会への出席依頼〈説明者〉(9月～全4回)

POINT①

連続したアプローチ

II 2014 2年目、具体的な連携を図る

▶ 教育委員会関係3課との意見交換会(3月)

* 学校教材の作成について

⇒中学生向け、フェアトレードをテーマとすることで合意

〈テーマを絞ると使いやすい、消費行動を生きる力を育むことに〉

▶ フェアトレード教材作成業務のプロポーザル実施(6月)

* 指導主事に選定会議参加と教材の原稿チェックを依頼

⇒市内全中学生と全教員に配付(12月)

- ▶ 消費者教育推進地域協議会(7月)〈委員に教育総務課長〉
- ▶ 消費者教育推進庁内連絡調整会議(8月)〈副会長に教育総務課長〉

POINT②

複数案提示したが不評で、腹案であったフェアトレードの話をしたところ思いがけず採用された

《テーマを絞ると使いやすい、消費行動を学ぶことは生きる力を育むことにつながる、などの意見が出された》

III 2015 3年目、教員OBのコーディネーター就任で連携が本格化

Section02 連携の仕組みづくり (3)大学

公立学校法人 静岡文化芸術大学との連携

I **S教授との交流から始まる**

▶ **会議委員の委嘱**

- * 2013 消費者教育のあり方検討会
- * 2014 消費者教育推進地域協議会(※継続中)

II **学生を交えた交流への広がり**

▶ **教材作りへの協力依頼**

- * 2014 フェアトレードをテーマとする教材(中学・一般)
⇒S教授が顧問を務めるフェアトレードサークルの活動紹介
- * 2017 消費者市民になろう！(高校向け映像教材)
⇒浜松市立高校生が研究室を訪れS教授からフェアトレードについてレクチャーを受ける
続いて大学の文化祭でフェアトレードサークルの出店を取材

III **大学との協働に発展**

▶ **S教授が企画した2回のフェアトレード全国フォーラム(2017・2019)に市も協力**

POINT①

〈S教授プロフィール〉
国際文化学科長
専門は国際協力とNGO
学内でフェアトレード大学の実現を目指す
フェアトレードタウンを目指す市民団体「はままつフェアトレードタウン・ネットワーク」の中心人物でもある

POINT② 〈つながり〉

サークル代表の学生は、初代
中学校教員OBコーディネーターの教え子

IV **2018 アジア初のフェアトレード大学となる**

▶ **市が支援するフェアトレードタウンとの相乗効果による地域の活性化を期待**

Section02 連携の仕組みづくり (4)庁内

▶ 2014 消費者教育推進庁内連絡調整会議の設置(8月)

構成員(20課でスタート)

市民生活課長 《会長》	高齢者福祉課長	産業総務課 雇用・労政担当課長
生涯学習課長 《副会長》	介護保険課長	農林水産政策課長
教育総務課長 《副会長》	健康増進課長	農林業振興課長
国際課長	生活衛生課長	教育センター所長
市民協働・地域政策課長	保育課長	指導課長(教委)
福祉総務課長	環境政策課長	市立高等学校長
障害保健福祉課長	資源廃棄物政策課 ごみ減量推進担当課長	

POINT

副会長のポストに腐心し、教育総務課長と生涯学習課長の2名体制となった
開催は不定期、各課の施策との個別の連携が主となっている

【関係する課に説明に回り、所属長に消費者教育推進への協力を依頼した】

▶ 2016 消費者教育推進計画〈2016年度～2020年度〉策定(5月)

- * 具体的な取組として、「フェアトレードやエシカル消費をテーマとしたイベントの開催」「学校教材の作成」「コーディネーターの配置(学校担当と地域担当)等を記載
- * 各課の関連事業はイメージマップに合わせて体系的に整理

▶ アクションプランを年度ごとに作成し、各課の関連事業を進捗管理している

Section03 連携・協働の事例 (1)フェアトレード1

教委・学生・市民団体・事業者

2014 フェアトレードをテーマとする教材

▶ 教育委員会との初の連携・協働により作成

＊プロポーザルを実施し、指導主事に選定会議参加と原稿チェックを依頼



中学生向け〈表紙〉



一般向け〈表紙〉

静岡文化芸術大学
のフェアトレード
サークル

〈地域の事例ページ〉



地域のフェアトレードショップ

POINT

フェアトレードの仕組みに加え、フェアトレードを広める活動をしている団体やショップ、フェアトレードタウンなど幅広い情報を掲載

分かりやすい内容で、市民団体や大学でも学習資料として利用されている

アジア初のフェアトレードタウンとなった熊本市、これから目指す名古屋市の市民活動

▶ 今年度、改訂版を作成中

Section03 連携・協働の事例 (1)フェアトレード2

市民団体・学生・事業者

2016 フェアトレードマップ

▶ 市民団体からの要望を受け作成

* 企画 **はままつフェアトレードタウン・ネットワーク**

* データ提供 **静岡文化芸術大学 S教授研究室**

▶ 掲載店舗数が年々増え、現在第4版を作成中

* 初版 107店舗 ⇒ 第4版 約200店舗

* 第4版からは**浜松消費者団体連絡会**も店舗調査に協力

POINT

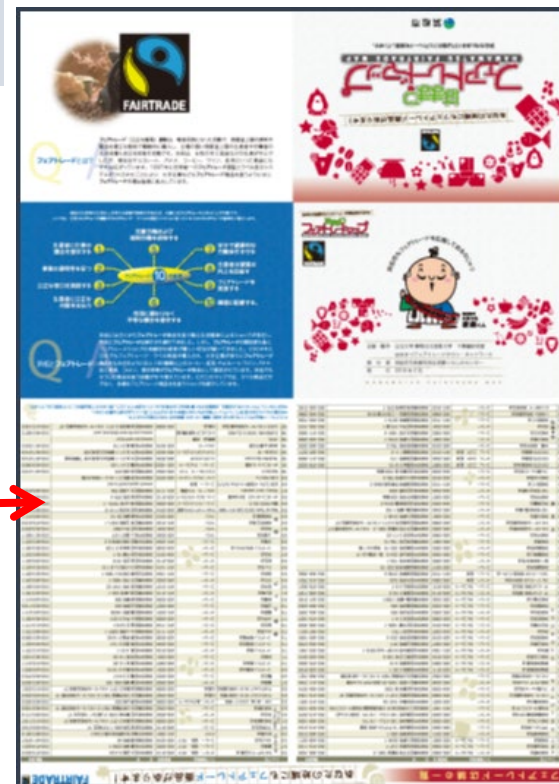
教材とマップが揃い、早期のフェアトレードタウン実現への機運が高まった



認定の必要条件である、議会によるフェアトレード支持決議、首長のフェアトレード支持宣言へとつながった
⇒**くらしのセンター**は市の担当窓口

裏面にショップ
のマップ

ショップ
リスト



+

〈初版〉

フェアトレード教材

〈フェアトレードタウンとは〉
市民、市民団体、事業者と行政が一体となり、まちぐるみでフェアトレードを推進する自治体のこと
イギリスで運動が始まり、今では30か国2000以上の都市が認定されている

Section03 連携・協働の事例 (1)フェアトレード3

大学・市民団体・事業者

2017 「フェアトレード全国フォーラム2017 in Hamamatsu」(11月)

▶ フェアトレードタウン浜松の誕生〈全国4番目〉

⇒会場で認定証授与式

* 開催趣旨

日本のフェアトレード運動のあり方について、全国の関係者が議論し、情報交換と相互交流を深めることによって運動のさらなる発展を目指す

* 主催

はままつフェアトレードタウン・ネットワーク
日本フェアトレードフォーラム
(※フェアトレードタウン認定団体)
静岡文化芸術大学

* 共催 浜松市

(※講師謝礼等を負担)

* 会場 静岡文化芸術大学

▶ 認定から3年が経ち、認定更新の手続き中

POINT

開催概要が固まってから協力要請を受けたが、他事業の調整により、講師謝礼の一部負担などで連携することができた

認定証を手にした「はままつフェアトレードタウン・ネットワーク」の代表と市長

6月	議会によるフェアトレード支持決議 「フェアトレードの理念に関する決議」 首長によるフェアトレード支持表明 「フェアトレード浜松宣言」
7月	はままつフェアトレードタウン・ネットワークによるフェアトレードタウン認定申請



Section03 連携・協働の事例 (1)フェアトレード4

大学・学生・市民団体・事業者

2019

「フェアトレード全国フォーラム2019 in Hamamatsu」(11月)

▶ フェアトレード+エシカル消費

* 開催趣旨

浜松市はフェアトレードタウンとフェアトレード大学が国内で初めてそろう
日本フェアトレード・フォーラムにおいて、新たに高校、中学を対象としたフェアトレードスクールの認定が検討されていることから、3者が連携するフェアトレード推進の仕組みと将来の可能性について、全国から参加したフェアトレードの推進団体や教育関係者が分かち合い共有する

* 主催

静岡文化芸術大学

浜松市

はままつフェアトレードタウン・ネットワーク

日本フェアトレードフォーラム

フェアトレード学生ネットワーク

* 協力 笹田学園(衣装縫製)

* 会場 静岡文化芸術大学

POINT① 企画段階から市も加わり、主に啓発用品の展示・販売、エシカル・ファッションショーなどの経費を負担

フィナーレで「エシカル消費を共に推進しよう！」と来場者に呼びかける市長



エシカル・ファッションショー



大学生、高校生が四季の衣装で登場

POINT② 〈ファッションショーの衣装〉 事業に関わる地元関係者を広げて連携の機会とするため、服飾専門学校に縫製を依頼、主な衣装を静岡文化芸術大学の学生がデザインし、生地は地元の繊維会社から調達した

Section03 連携・協働の事例 (2) 学校教材 1

教委・学校・大学・学
生・事業者・地域協議
会委員

2015 学校と連携した教材作りが本格的にスタート

- ▶ 国語科教員OBコーディネーターが家庭科研究会にアプローチし、作成会議を設置

POINT 2015からの小中高教材では指導ガイドも作成

年度	タイトル	体裁	対象	連携
2014	ぼくたち・私たちの消費行動が世界を変える！ フェアトレード	冊子	中学生	指導主事 静岡文化芸術大学フェアトレードサークル、事業者
	選んでみませんか？フェアトレード	冊子	一般	
2015	おかいものだいすき！	絵本	保育園、幼稚園、 小学校低学年	児童家庭課
	よりよい現在と未来を考える食の選択 ー消費者市民になろうー	教材キット	中学校教員	家庭科教員
2016	筆箱を選ぼう・ジャガイモを選ぼう（2種類）	教材キット	小学校教員	家庭科教員
2017	消費者市民になろう！ ー公正で持続可能な社会を目指してー 1) 契約編 2) フェアトレードタウン浜松編	映像	高校教員	市立高校、静岡文化芸術大学 家庭科・公民科・商業科教員 地域協議会委員（弁護士、司法書士）
2018	浜松から未来をひらく エシカル消費 ーSDGsの達成に向けた消費者市民としての行動	冊子	中学生	家庭科・社会科教員、指導主事 事業者
2019	フェアトレードマスターをめざそう・写真を見て考えよう（SDGs、エシカル消費）	掲示物2種	小学生	家庭科・社会科教員、指導主事

- ▶ 2017 家庭科教員OBのコーディネーターが就任し、連携の範囲が一層拡大

* 出前授業により、専科の教員を置いていない学校へのフォローも実施

Section03 連携・協働の事例 (2) 学校教材2

教委・大学・学生・事業者

2020 学校と連携した教材作りの大きな成果

▶ 2018年度に作成した中学生向け教材が内閣府特命担当大臣賞を受賞

(※主催は消費者教育支援センター)

* タイトル 浜松から未来をひらく エシカル消費
—SDGsの達成に向けた消費者市民としての行動—

【エシカル消費を通して持続可能な社会の構築に寄与する消費者市民の育成を目指す】

(教材 地域の取組ページ)



〈表紙〉

中学生や大学生の
取組、フェアトレード
の食材を使用した給食など



フェアトレード、FS
Cなど企業の取組
を紹介

POINT

学校との協働作
業が成果を生み、
SDGs教育を進
める必要のある教
育委員会にとつ
ても時宜にかなうも
のであった

Section03 連携・協働の事例 (3) 庁内関係課等 1

庁内各課

関係する計画への反映

POINT 【注】は働きかけたもの

▶ 第3次浜松市教育総合計画〈2015年度～2024年度〉（教育総務課）【注】

* これからの社会を生き抜くための資質や能力を育む子供を育てる-持続可能な社会実現の施策
⇒「環境教育、エネルギー教育、福祉教育、消費者教育などの推進」

▶ 第2次浜松市国際戦略プラン〈2019年度～2023年度〉（国際課）

* 本市の特長を生かした官民連携による国際貢献
⇒「市民団体・大学等と連携したフェアトレードなどのエシカル消費の普及・啓発促進」

フェアトレードに関連する啓発

▶ フェアトレードの食材を使った給食の提供（教育委員会健康安全課）【注】

【静岡文化芸術大学S教授からの提案がきっかけ】

* 2018 引佐学校給食センター
（小中学校7校、幼稚園6園）

* 2019 引佐学校給食センター
浜北学校給食センター
（小中学校15校）

* 2020 浜北学校給食センター

▶ SDGs未来都市（企画課）

〈JR浜松駅北口にメッセージボードを設置〉



Section03 連携・協働の事例 (3) 庁内関係課等2

庁内各課

フェアトレードに関連する啓発(続き)

▶ 庁内文書(通知、依頼、報道発表等)にロゴデザインの採用 (文書行政課)【注】

＊「職員に周知し、全庁を挙げて認知度の向上と推進を図る」目的で、下段欄外に市の施策のロゴデザインを配している

2020年はフェアトレードタウンとSDGsの2つのロゴデザインを採用し、全職員が使用



▶ 市の広報媒体による啓発 (広聴広報課)

＊ラジオ、FM放送、ケーブルテレビ、地上波テレビなど

【今年はフェアトレードタウンの更新年であり、2月～3月に集中的に放送】

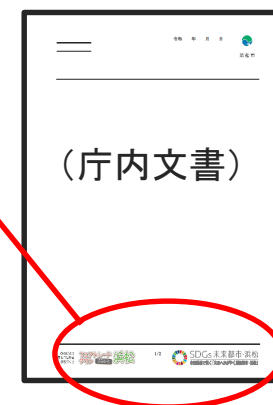
その他(くらしのセンターの新規事業)

▶ エシカル消費をテーマとした職員研修の実施(2019年10月)

＊講師 一般社団法人日本エシカル推進協議会 会長 中原秀樹氏

＊テーマ 「SDGs×消費者・市民の意識変革＝エシカル」

⇒全職員を対象とし、61課82名が参加 【職域での消費者教育として実施】



Section04 まとめ (1)フェアトレードからエシカル、SDGへ

フェアトレードから始まった連携・協働は、
タイトル(テーマ)がエシカル消費、SDGs
へと変わっても引き継がれている

SDGs

エシカル消費

フェアトレード

地域の関係者 (事業者)	店舗紹介	店舗掲載		取組紹介	衣装生地 提供	
はままつフェアトレードタウン・ネット ワーク(市民団体)		企画	主催 (認定申請)	活動紹介	主催	更新申請
静岡文化芸術大学	サークル 活動紹介	データ提供	主催	フェアトレー ド大学紹介	主催	
庁内関係課				フェアトレードの 給食		支援
教育委員会・学校	全中学生 に配布			全中学生 に配布		

主な取組

2014



フェアトレード
教材

2016



フェアトレード
マップ

2017



フェアトレード全国フォー
ラム2017(フェアトレード
タウン認定)

2018



エシカル消費
教材

2019



フェアトレード全国フォー
ラム2019
エシカル・ファッションショー

2020



フェアトレードタウン更新
(SDGs未来都市)

Section04 まとめ (2)コーディネーターを中心とした連携・協働

連携した取組が拡大するイメージ

教員OBコーディネーターは行政職員と組み、学校との連携を進めた

コーディネーターが2人になると、協力して地域の様々なステークホルダーに働きかけ、連携する取組も増えた
 <行政職員は「くらしのセミナー」など啓発事業の中で連携を図っている>

場ごとの関わり(参考)
 (大 ◎>○>△ 小)

	学校	家庭	地域		職域
			一般	高齢者	
行政職員	△	△	○	○	△
教員OBコーディネーター	◎	△	○	△	○
職員OBコーディネーター	○	△	○	△	◎
消費者団体	△	○	○	◎	△

消費者団体は高齢者向けの出前講座を担当

Section04 まとめ (3)連携・協働のために必要なこと

①幅広いステークホルダーと連携・協働できるテーマを見つける

- ▶ 消費者教育はテーマも関係者も多様であるが、どこかでつながっている

②いつも消費者教育の啓発を意識する

- ▶ 事業説明、意見交換、会議のテーマ設定、アンケート・ヒアリング調査なども啓発の機会

③地元の先駆的な事例は積極的に取り上げ応援する

- ▶ (例)地域の取組として教材に掲載することで、次の連携につながることもある

④キーマンの信頼を得る

- ▶ 相手からの要望、意見に対して丁寧に対応する

⑤自分からも提案できるように日頃から情報収集を怠らない

- ▶ 官公庁、外郭団体、事業者団体などから届く報告書や啓発資料にできるだけ目を通す(もちろん新聞やネットも)
- ▶ 様々なステークホルダーが参加するシンポジウム、啓発イベントに出かける

⑥継続する

まとめ (4)今後の課題

①コーディネーターの後継者問題

- ▶ 行政職員OBについては、消費者教育を担当した経験のある職員が少なく適任者不在(下記②に詳しい職員は候補)

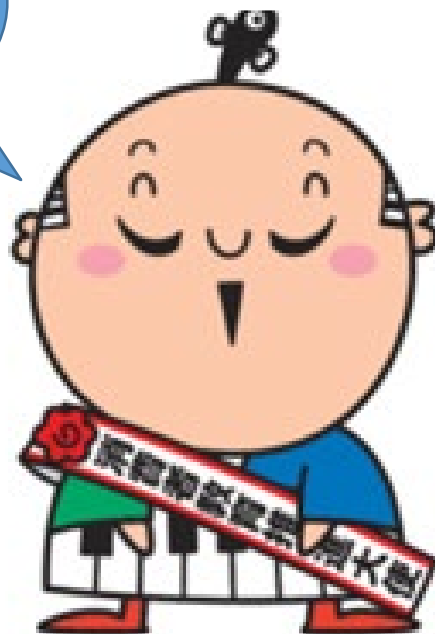
②職域、地域(特に高齢者関係)など実績が少ない場に対するアプローチ

③連携・協働のスキル向上のための機会が不足

- ▶ 国民生活センター主催の研修には参加できるが、連携・協働のパターンは地域の実情により異なり、手探り状態

ご清聴ありがとうございました。

消費者教育コー
ディネーターの
活躍を期待して
いるのじゃ！



消費者教育推進大使家康くん

